

29【P1】Ⅱ-005

漢方薬選択支援システムの開発研究（その2. 基本知識ベースの構築）

○馮春來¹, 宮崎剛¹, 寺田幸正¹(¹名城大薬)

【目的】21世紀の医療は「自分の健康は自分で守る」が基本となる。そのため、自然治癒力の向上、高齢患者のQOLの向上、医療費の削減などを図る。これとともに、漢方薬の重要性が増すと考えられる。一方、医薬分業が進んでおり、薬剤師の役割は患者に対する薬物の適正使用の指導が中心になると考えられる。しかし、薬剤師は漢方医学知識が十分とは言えないため、漢方薬の選定と適正使用のために、私たちは漢方薬選択支援システムの開発を開始した。

【方法】私たちは弁証→弁証→治療法決定→漢方薬選定というモデルを考えてシステムを開発しようとしている。システムには弁証、検索、サポートという三つのモジュールがある。弁証のために、現在知識のフレーム表示法、前向式推論、データベース技術等の方法を組みあわせて漢方基本知識ベースを構築している。この知識ベースには陰陽五行説、臟腑説、経絡説、気血水説、病因病機説などの基礎理論や四診および八綱、臟腑、経絡、気血水、病因、三焦、六経などの弁証方法の知識が含まれる。

【結果および考察】現在、システムの全体構造と基本知識ベースはほぼ完成している。この知識ベースを使えば、患者の症状から可能な病域、基本証を推論できる。また、このシステムはVC++言語とADOを用いて開発したので、データの追加、修正には便利である。推論結果に基づいて、今後、単一病域のエキスパートシステムと結合して症状から漢方薬の選択までのシステムを開発しようと考えている。